

和陽日本語学院 学則

第一章 総則

(目的)

第1条 日本語教育と進学指導を通じて、留学生の専門学校、大学への進学を支援し、「やればできるという自信」と「将来の選択肢の広がり」を提供し、留学生の人生に貢献する。

(名称)

第2条 本学院は、和陽日本語学院という。

(位置)

第3条 本学院は、本校を東京都世田谷区北沢1丁目34番17号に、分校を東京都世田谷区代沢2丁目6番10号に置く。

第二章 コース、修業期間、収容定員及び休業日

(コース・修業期間・収容定員)

第4条 本学院のコース、修業期間、収容定員及びクラスは次の表のとおりとする

第 1 部・第 2 部	コース名	修業期間	収容定員	クラス数	入学時期
第 1 部	進学2年コース	2 年	9 8	5	4 月
	進学1年9ヶ月コース	1年9ヶ月	1 4	1	7 月
	進学1年6ヶ月コース	1年6ヶ月	3 1	2	1 0 月
	進学1年3ヶ月コース	1年3ヶ月	1 2	1	1 月
	小 計		1 5 5	9	
第 2 部	進学2年コース	2 年	9 8	5	4 月
	進学1年9ヶ月コース	1年9ヶ月	1 4	1	7 月
	進学1年6ヶ月コース	1年6ヶ月	3 1	2	1 0 月
	進学1年3ヶ月コース	1年3ヶ月	1 2	1	1 月
	小 計		1 5 5	9	
計			3 1 0	1 8	

(始期・終期等)

第5条 本学院の2年コースは、4月から始まり、翌々年の3月に終わる。

1年9ヶ月コースは、7月から始まり、翌々年の3月に終わる。

1年6ヶ月コースは、10月から始まり、翌々年の3月に終わる。

1年3ヶ月コースは1月から始まり翌年の3月に終わる。

2 前項の期間を8つの学期に分ける。

(1) 第1学期 4月1日～6月30日

(2) 第2学期 7月1日～9月30日

(3) 第3学期 10月1日～12月31日

(4) 第4学期 翌年1月1日～3月31日

(5) 第5学期 4月1日～6月30日

(6) 第6学期 7月1日～9月30日

(7) 第7学期 10月1日～12月31日

(8) 第8学期 翌々年1月1日～3月31日

(休業日)

第6条 本学院の休業日は次のとおりとする。

(1) 土曜日

(2) 日曜日

(3) 国民の祝日に関する法律で規定する休日

(4) 夏季休業(7月下旬から8月中旬)

(5) 冬季休業(12月下旬から1月上旬)

(6) 春季休業(3月下旬から4月上旬)

ただし、(4)、(5)、(6)の休業日は毎年年末に授業の進行状況を見て翌年度の休業日を決定する。

2 教育上必要であり、かつ、やむをえない事情があると校長が認めるときは、前項の規定にかかわらず休業日に授業を行うことができる。

3 非常災害その他の急迫した事情があると校長が認めるときは、臨時に授業を行わないことができる。

(授業の終始時刻)

第7条 授業の終始時刻は、校長が定める。

第三章 教育課程、授業時数、学習評価及び教職員組織

(教育課程)

第8条 本学院の各コース別の教育課程及び授業時数は次のとおりとする。ただし、ここにいう授業時数の1単位時間は45分とする。

(1) 2年コース

レベル	到達目標	週あたり授業数/期間
初級1	話す（やりとり）：身近な話題（自分、家族、学校、買い物、地域など）について、簡単な表現を用いてやり取りができる。必要に応じて相手に聞き返したり、言い換えたりしながら、基本的な情報交換ができる。 話す（発表）：自分や家族、学校生活、日課、好きなことなどについて、短い文をつなげて簡単に説明することができる。 書く：身近な出来事や予定、依頼、連絡などについて、短い文章でメモやメールを書くことができる。 聞く：学校生活や日常生活に関する短く分かりやすい説明や案内を聞いて、要点を理解することができる。 読む：身近な話題に関する短い文章や案内、お知らせ、メールなどを読み、必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
初級2	話す（やりとり）：日常生活や学校生活で必要な場面において、自分の考えや希望、経験を簡単な表現で伝え、相手と情報交換を続けることができる。 話す（発表）：経験や予定、興味のあることについて、いくつかの文をつなげながら、順序立てて簡単に説明することができる。 書く：経験や予定、感想などについて、複数の文を用いてまとまりのある短い文章を書くことができる。 聞く：身近な話題についての会話や説明、アナウンスを聞き、必要な情報や話の流れを理解することができる。 読む：学校生活や日常生活に関する説明文、案内文、メールなどを読み、要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月

初中級1	話す（やりとり）：日常生活や学校生活、進学に関する身近な話題について情報をやり取りし、自分の経験や考えを簡単に伝えることができる。 話す（発表）：身近な出来事や経験、将来の希望などについて、簡単な構成で分かりやすく発表することができる。 書く：簡単な接続詞を用いて、自分の経験や考えをまとまりのある短い文章で書くことができる。 聞く：学校生活や日常生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点を把握することができる。 読む：身近な話題についての説明文や案内文、短い記事を読み、必要な情報や要点を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
初中級2	話す（やりとり）：日常生活や進学に関する話題について、自分の意見や理由を述べながら相手とやり取りすることができる。 話す（発表）：関心のある話題について、理由や具体例を交えながら内容を整理し、分かりやすく発表することができる。 書く：自分の意見や計画について、理由や具体例を用いてまとまりのある文章を書くことができる。 聞く：学校生活や社会生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。 読む：説明文や新聞記事などを読み、文章の要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級1	話す（やり取り）：社会生活や進学に関する身近な話題について、自分の意見を理由とともに述べ、相手と意見交換を行うことができる。 話す（発表）：身近な社会問題や関心のあるテーマについて、情報を整理して分かりやすく発表することができる。 書く：理由や具体例を用いて、自分の考えを論理的な構成で文章にまとめることができる。 読む：新聞記事や説明文を読み、要点や筆者の主張を理解することができる。聞く：ニュースや講義などの内容を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級2	話す（やり取り）：社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら意見交換を行い、相手の意見に応答することができる。 話す（発表）：調べた内容を整理し、資料を活用しながら論理的に発表することができる。 書く：複数の情報を整理し、自分の意見を根拠とともに文章で表現することができる。 聞く：講義や説明を聞き、要点だけでなく理由や展開も理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月

	読む：複数の文章を比較しながら必要な情報を整理し、内容を理解することができる。	
中上級1	話す（やり取り）：進学や社会的課題について、自分の立場を明確にしながら議論することができる。 話す（発表）：調査結果や資料を基に、聞き手を意識した発表を行い、質問にも適切に対応することができる。 書く：レポートや意見文を論理的な構成で作成し、適切な表現を用いることができる。 聞く：大学の講義やインタビュー等を聞き、必要な情報を整理して活用することができる。 読む：論説文や専門分野への導入的な文章を読み、論理の展開や筆者の主張を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中上級2	話す（やり取り）：進学後に想定される学習や社会的な場面において、相手の意見を踏まえながら自分の考えを整理し、目的に応じて意見交換を行うことができる。 話す（発表）：専門分野に関連するテーマについて、資料を活用しながら論理的に発表し、質疑応答にも対応することができる。 書く：複数の資料や情報を整理し、論理的なレポートや意見文を作成することができる。 聞く：大学の講義や説明を理解し、内容を整理して学習に活用することができる。 読む：専門分野への導入的な文章や論説文を読み、必要な情報を整理しながら理解することができる。	20時間単位 ／ 3か月

（2）1年9ヶ月コース

レベル	到達目標	週あたり授業数/期間
-----	------	------------

初級 2	話す（やりとり）：日常生活や学校生活で必要な場面において、自分の考えや希望、経験を簡単な表現で伝え、相手と情報交換を続けることができる。 話す（発表）：経験や予定、興味のあることについて、いくつかの文をつなぎながら、順序立てて簡単に説明することができる。 書く：経験や予定、感想などについて、複数の文を用いてまとまりのある短い文章を書くことができる。 聞く：身近な話題についての会話や説明、アナウンスを聞き、必要な情報や話の流れを理解することができる。 読む：学校生活や日常生活に関する説明文、案内文、メールなどを読み、要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
初中級1	話す（やりとり）：日常生活や学校生活、進学に関する身近な話題について情報をやり取りし、自分の経験や考えを簡単に伝えることができる。 話す（発表）：身近な出来事や経験、将来の希望などについて、簡単な構成で分かりやすく発表することができる。 書く：簡単な接続詞を用いて、自分の経験や考えをまとまりのある短い文章で書くことができる。 聞く：学校生活や日常生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点を把握することができる。 読む：身近な話題についての説明文や案内文、短い記事を読み、必要な情報や要点を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
初中級2	話す（やりとり）：日常生活や進学に関する話題について、自分の意見や理由を述べながら相手とやり取りすることができる。 話す（発表）：関心のある話題について、理由や具体例を交えながら内容を整理し、分かりやすく発表することができる。 書く：自分の意見や計画について、理由や具体例を用いてまとまりのある文章を書くことができる。 聞く：学校生活や社会生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。 読む：説明文や新聞記事などを読み、文章の要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級1	話す（やり取り）：社会生活や進学に関する身近な話題について、自分の意見を理由とともに述べ、相手と意見交換を行うことができる。 話す（発表）：身近な社会問題や関心のあるテーマについて、情報を整理して分かりやすく発表することができる。 書く：理由や具体例を用いて、自分の考えを論理的な構成で文章にまとめることができる。 読む：新聞記事や説明文を読み、要点や筆者の主張を理解することができる。聞く：ニュースや講義などの内容を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。	20単位時間 ／ 3か月

中級2	話す（やり取り）：社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら意見交換を行い、相手の意見に応答することができる。 話す（発表）：調べた内容を整理し、資料を活用しながら論理的に発表することができる。 書く：複数の情報を整理し、自分の意見を根拠とともに文章で表現することができる。 聞く：講義や説明を聞き、要点だけでなく理由や展開も理解することができる。 読む：複数の文章を比較しながら必要な情報を整理し、内容を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中上級1	話す（やり取り）：進学や社会的課題について、自分の立場を明確にしながら議論することができる。 話す（発表）：調査結果や資料を基に、聞き手を意識した発表を行い、質問にも適切に対応することができる。 書く：レポートや意見文を論理的な構成で作成し、適切な表現を用いることができる。 聞く：大学の講義やインタビュー等を聞き、必要な情報を整理して活用することができる。 読む：論説文や専門分野への導入的な文章を読み、論理の展開や筆者の主張を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中上級2	話す（やり取り）：進学後に想定される学習や社会的な場面において、相手の意見を踏まえながら自分の考えを整理し、目的に応じて意見交換を行うことができる。 話す（発表）：専門分野に関連するテーマについて、資料を活用しながら論理的に発表し、質疑応答にも対応することができる。 書く：複数の資料や情報を整理し、論理的なレポートや意見文を作成することができる。 聞く：大学の講義や説明を理解し、内容を整理して学習に活用することができる。 読む：専門分野への導入的な文章や論説文を読み、必要な情報を整理しながら理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月

(3) 1年6ヶ月コース

レベル	到達目標	週あたり授業 数/期間
初中級1	話す（やりとり）：日常生活や学校生活、進学に関する身近な話題について情報をやり取りし、自分の経験や考えを簡単に伝えることができる。 話す（発表）：身近な出来事や経験、将来の希望などについて、簡単な構成で分かりやすく発表することができる。 書く：簡単な接続詞を用いて、自分の経験や考えをまとまりのある短い文章で書くことができる。 聞く：学校生活や日常生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点を把握することができる。 読む：身近な話題についての説明文や案内文、短い記事を読み、必要な情報や要点を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
初中級2	話す（やりとり）：日常生活や進学に関する話題について、自分の意見や理由を述べながら相手とやり取りすることができる。 話す（発表）：関心のある話題について、理由や具体例を交えながら内容を整理し、分かりやすく発表することができる。 書く：自分の意見や計画について、理由や具体例を用いてまとまりのある文章を書くことができる。 聞く：学校生活や社会生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。 読む：説明文や新聞記事などを読み、文章の要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級1	話す（やりとり）：社会生活や進学に関する身近な話題について、自分の意見を理由とともに述べ、相手と意見交換を行うことができる。 話す（発表）：身近な社会問題や関心のあるテーマについて、情報を整理して分かりやすく発表することができる。 書く：理由や具体例を用いて、自分の考えを論理的な構成で文章にまとめることができる。 読む：新聞記事や説明文を読み、要点や筆者の主張を理解することができる。聞く：ニュースや講義などの内容を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級2	話す（やりとり）：社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら意見交換を行い、相手の意見に応答することができる。 話す（発表）：調べた内容を整理し、資料を活用しながら論理的に発表することができる。	20単位時間 ／ 3か月

	書く：複数の情報を整理し、自分の意見を根拠とともに文章で表現することができる。 聞く：講義や説明を聞き、要点だけでなく理由や展開も理解することができる。 読む：複数の文章を比較しながら必要な情報を整理し、内容を理解することができる。	
中上級1	話す（やり取り）：進学や社会的課題について、自分の立場を明確にしながら議論することができる。 話す（発表）：調査結果や資料を基に、聞き手を意識した発表を行い、質問にも適切に対応することができる。 書く：レポートや意見文を論理的な構成で作成し、適切な表現を用いることができる。 聞く：大学の講義やインタビュー等を聞き、必要な情報を整理して活用することができる。 読む：論説文や専門分野への導入的な文章を読み、論理の展開や筆者の主張を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中上級2	話す（やり取り）：進学後に想定される学習や社会的な場面において、相手の意見を踏まえながら自分の考えを整理し、目的に応じて意見交換を行うことができる。 話す（発表）：専門分野に関連するテーマについて、資料を活用しながら論理的に発表し、質疑応答にも対応することができる。 書く：複数の資料や情報を整理し、論理的なレポートや意見文を作成することができる。 聞く：大学の講義や説明を理解し、内容を整理して学習に活用することができる。 読む：専門分野への導入的な文章や論説文を読み、必要な情報を整理しながら理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月

（４）1年3ヶ月コース

レベル	到達目標	週あたり授業数/期間
-----	------	------------

初中級2	話す（やりとり）：日常生活や進学に関する話題について、自分の意見や理由を述べながら相手とやり取りすることができる。 話す（発表）：関心のある話題について、理由や具体例を交えながら内容を整理し、分かりやすく発表することができる。 書く：自分の意見や計画について、理由や具体例を用いてまとまりのある文章を書くことができる。 聞く：学校生活や社会生活で用いられる標準的な日本語を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。 読む：説明文や新聞記事などを読み、文章の要点や必要な情報を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級1	話す（やり取り）：社会生活や進学に関する身近な話題について、自分の意見を理由とともに述べ、相手と意見交換を行うことができる。 話す（発表）：身近な社会問題や関心のあるテーマについて、情報を整理して分かりやすく発表することができる。 書く：理由や具体例を用いて、自分の考えを論理的な構成で文章にまとめることができる。 読む：新聞記事や説明文を読み、要点や筆者の主張を理解することができる。聞く：ニュースや講義などの内容を理解し、要点や話し手の考えを把握することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中級2	話す（やり取り）：社会的な話題について、根拠や具体例を挙げながら意見交換を行い、相手の意見に応答することができる。 話す（発表）：調べた内容を整理し、資料を活用しながら論理的に発表することができる。 書く：複数の情報を整理し、自分の意見を根拠とともに文章で表現することができる。 聞く：講義や説明を聞き、要点だけでなく理由や展開も理解することができる。 読む：複数の文章を比較しながら必要な情報を整理し、内容を理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月
中上級1	話す（やり取り）：進学や社会的課題について、自分の立場を明確にしながら議論することができる。 話す（発表）：調査結果や資料を基に、聞き手を意識した発表を行い、質問にも適切に対応することができる。 書く：レポートや意見文を論理的な構成で作成し、適切な表現を用いることができる。	20単位時間 ／ 3か月

	聞く：大学の講義やインタビュー等を聞き、必要な情報を整理して活用することができる。 読む：論説文や専門分野への導入的な文章を読み、論理の展開や筆者の主張を理解することができる。	
中上級2	話す（やり取り）：進学後に想定される学習や社会的な場面において、相手の意見を踏まえながら自分の考えを整理し、目的に応じて意見交換を行うことができる。 話す（発表）：専門分野に関連するテーマについて、資料を活用しながら論理的に発表し、質疑応答にも対応することができる。 書く：複数の資料や情報を整理し、論理的なレポートや意見文を作成することができる。 聞く：大学の講義や説明を理解し、内容を整理して学習に活用することができる。 読む：専門分野への導入的な文章や論説文を読み、必要な情報を整理しながら理解することができる。	20単位時間 ／ 3か月

（学習の評価）

第9条 成績評価は期末テストの点数によってA～Eの5段階評価で行う。D評価の学生には課題を課す。E評価の学生には補講と課題を課す。

A：90点～100点

B：80点～89点

C：70点～79点

D：60点～69点

E：60点未満（および未受験）

（教職員組織）

第10条 本学院に次の教職員を置く。

（1）校長 1名

（2）主任教員 1名 （校長と主任教員の兼務可）

- (3) 教員 16名以上 (うち本務等教員7名以上)
 - (4) 生活指導担当者 3名以上 (本務1名以上、兼務2名以上)
 - (5) 事務職員 3名以上
- 2 前項のほか、必要な職員を置くことができる。
- 3 校長は校務全般をつかさどり、所属教職員を監督する。

第四章 入学、休学、退学、卒業及び賞罰

(入学資格)

第11条 本学院への入学資格は、次の条件をいずれも満たしていることとする。

- (1) 12年以上の学校教育又はそれに準ずる課程を修了している者
- (2) 年齢が18歳以上の者
- (3) 正当な手続によって日本国への入国を許可され、又は許可される見込みのある者
- (4) 信頼のおける保証人を有する者
- (5) それぞれの入学の時期に応じた日本語能力を有する者

4月生(2年課程) : ごく基本的な語彙・定型表現を用いて、自分自身や身近な事柄について極めて簡単なやり取りができる程度(参照枠A1相当)の日本語能力を有する者。

7月生(1年9か月課程) : 身近な日常生活の場面において、簡単な語句や基本的な表現を用いて、必要最低限のやり取りが一部できる程度(参照枠A2の学習に一定程度取り組んだ程度)の日本語能力を有する者。

10月生(1年6か月課程) : 身近な話題について、自分の経験や考えを簡単な理由とともに伝え、日常生活に必要なやり取りが一通りできる程度(参照枠A2ノ学習を修了した段階)の日本語能力を有する者。

1月生(1年3か月課程) : 身近な話題や関心のある事柄について、自分の考えや経験を理由とともにある程度まとまりをもって伝え、基本的な意見交換ができる程度(参照枠B1レベルの学習に一定程度取り組んだ程度)の日本語能力を有する者。

(入学時期)

第12条 本学院への入学は、年4回とし、その時期は、4月、7月、10月及び1月とする。

(入学手続)

第13条 本学院への入学手続は次のとおりとする。

- (1) 本学院の定める入学願書などの書類に必要な事項を記入し、入学検定料を添えて指定日までに出願する。
- (2) 出願者について、選考を行い、入学者を決定する。
- (3) 入学許可された者は、本学院の指定どおりに費用を添えて、入学の手続をしなければならない。

(休学・復学)

第14条 生徒が疾病その他やむを得ない事由によって、10日以上休学しようとする場合は、その事由及び休学期間を記載した休学届に、診断書その他必要な書類を添えて申請し、校長の許可を受けなければならない。ただし、休学期間は最大3ヵ月とする。

- 2 休学した者が復学しようとする場合は、校長にその旨を届け出て、許可を得て復学することができる。

(退学)

第15条 退学しようとする者は、その事由を記し、校長の許可を受けなければならない。

(修了・卒業の認定)

第16条 校長は、第9条に定める学習評価を行い、一定の評価を受け、毎学期の出席率85%以上の者に対して修了を認定する。

- 2 校長は、所定の課程を修了した者に対して、卒業証書を授与する。

(褒賞)

第17条 校長は、成績優秀かつ他の生徒の模範となる者に対して、褒賞を与えることができる。

(懲戒処分)

第18条 生徒が、この学則その他本学院の定める諸規則を守らず、その本分にもとる行為があった場合、校長は、当該生徒に対して懲戒処分を行うことができる。

- 2 懲戒処分の種類は、訓告、及び除籍の2種とする。
- 3 前項の除籍は、次の各号の一に該当する生徒に対してのみ行うものとする。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 正当な理由がなく出席常でない者

(3) 学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者

第五章 生徒納付金

(生徒納付金)

第19条 本学院の生徒納付金は次のとおりとする。

初年度（各コース共通）

(1) 入学検定料	20,000円	初年度のみ
(2) 入学金	50,000円	初年度のみ
(3) 授業料	660,000円	
(4) 教材費	40,000円	
(5) 行事費	18,000円	
(6) 施設利用料	28,000円	
計	816,000円	

上記(1)～(6)の費用それぞれに消費税が加算される。

次年度（2年コース）

(1) 授業料	660,000円
(2) 教材費	40,000円
(3) 行事費	18,000円
(4) 施設利用料	28,000円
計	746,000円

上記(1)～(4)の費用それぞれに消費税が加算される。

次年度（1年9ヶ月コース）

(1) 授業料	495,000円
(2) 教材費	30,000円
(3) 行事費	18,000円
(4) 施設利用料	21,000円
計	564,000円

上記(1)～(4)の費用それぞれに消費税が加算される。

次年度（1年6ヶ月コース）

(1) 授業料	330,000円
(2) 教材費	20,000円

(3) 行事費	18,000円
(4) 施設利用料	14,000円
計	382,000円

上記(1)～(4)の費用それぞれに消費税が加算される。

次年度(1年3ヶ月コース)

(1) 授業料	165,000円
(2) 教材費	10,000円
(3) 行事費	18,000円
(4) 施設利用料	7,000円
計	200,000円

上記(1)～(4)の費用それぞれに消費税が加算される。

(納入)

第20条 生徒が在籍中は、出席の有無にかかわらず授業料を所定どおりに納入しなければならない。

- 2 生徒が休学した場合、前項の規定にかかわらず、その始期に属する月から授業料を免除することができる。

(滞納)

第21条 生徒が、正当な理由なく、かつ、所定の手続を行わずに、授業料を2ヵ月以上滞納し、その後においても納入の見込みのない場合には、校長は当該学生に対して除籍を命ずることがでる。

(生徒納付金の返還)

第22条 既に納入した生徒納付金は、以下の事由で校長が解約を認めた場合、返還する。

生徒は申し込みの意思を学校に伝え、学校が承諾したメール(文書)を出した日から8日間であればクーリングオフが可能。(日本時間が基準)返金に伴う手数料は受講生が負担する。

- (1) ビザ申請書類提出後のキャンセルの場合

在留資格認定証明書(COE)の交付、不交付に関わらず、入学検定料は返金しない。

- (2) 在留資格認定証明書(COE)交付後で、授業開始前のキャンセルの場合

理由の如何に関わらず入学検定料および入学金は返金しない。授業料は在留資格認定証明書および入学許可証と引き換えの上、全額返金する。また、入国ビザ発給後のキャンセルの場合

合、入国ビザが未使用であることを当校職員によって確認されることが必要となる。

(3) 日本大使館、領事館によってビザ発給が拒否された場合

入学検定料は返金しない。入学金および授業料はビザ発給拒否が当校職員によって確認された後、在留資格認定証明書および入学許可証と引き換えの上、全額を返金する。

(4) 授業開始後のキャンセルの場合

入学検定料および入学金は返金しない。キャンセル料として50,000円を上限に、残りの授業分の授業料の20%に相当する金額をキャンセル料として申し受ける。留学ビザが無効になったことを当校職員によって確認された後、残金を返金する。

第六章 雑則

(健康診断)

第23条 健康診断は毎年一回受けることとする。

2 日常健康管理についても生活指導の業務として生活指導員は責任をもって行う。

(細則)

第24条 この学則の施行についての細則は、校長が別に定める。

附則

この規則は2025年10月1日から施行する。